

今、地方の現場で 思うこと

上尾市行政経営部次長
兼 財政課長

江戸 将志

EDO Masashi

平成19年 4月 総務省採用
大臣官房会計課
平成20年 4月 自治行政局地域振興課過疎対策室
平成20年 7月 自治行政局地域自立応援課過疎対策室
平成21年 4月 熊本県市町村総室
平成23年 4月 大臣官房会計課
(併任 会計課予算執行調査室室員)
平成24年 4月 自治税務局市町村税課
平成25年 4月 自治財政局財政課企画係長
併任 自治財政局財政課
復興特別交付税室室員
平成27年 4月 自治財政局財政課制度係長
平成28年 4月 上尾市行政経営部財政課長
平成29年 4月 現職



Question & Answer

Q. これまでの仕事で達成感のあったことは？

A. 上尾市長選後の予算編成など、地方勤務時も、そして、総務省勤務時も、自分にとって「ほんの少し高いな」と思うハードルに出会うこともありましたが、目一杯背伸びして、それを乗り越えた時には、必ず心地よい達成感が待っていました。また、自分の携わる仕事が新聞記事になった時には、「自分の仕事が世の中と繋がっている」「自分の仕事で街が変わっていく」と実感し、大きなやりがいを感じることができました。

Q. 入省後、成長したと思うことは？

A. 入省して12年目を迎えますが、これまで霞ヶ関、熊本県庁、上尾市役所と3つの職場を経験しました。国家公務員だけでなく地方公務員として、地方の実情に触れながら様々なフィールドを歩み、色々な立場の方と議論を交わすことで、広い視野で物事を考える力を養うことができたと感じています。また、地方に管理職として赴任し、年齢に比して重い職責を任されることで、「個」として歩んでいく力を鍛えることができたと感じています。

■新しい街を描く

昨年12月末に実施された埼玉県上尾市長選。新市長就任から来年度予算決着までのリミットは、「50日」。どんなに短期間であったとしても、市の予算を掌る財政課長として、市長の想いを来年度予算に反映させなければなりません。それが私の仕事です。約23万市民による選挙を経て当選した市長。「市長」の想いの実現、それは、「市民」の想いの実現と同義です。

この「50日」は、私の人生の中でも色濃い50日でした。市長就任後翌日に本市の財政状況を市長に説明、1週間後に12月議会開会、2週間後に「予算編成の基本方針」を改定、その後1ヶ月で当初予算を編成し、3月議会に議案として提出。1日たりとも時間を無駄に出来ませんでした。こうして出来上がった予算をもとに、新しい「上尾」が動き出します。私は1人の職員として「新しい街を描く」仕事に携われたことを誇りに思うとともに、これから街が変わっていく姿を1人の市民として見届けたいと思います。

■直感を大切に

私は、入省10年目で上尾市役所に管理職として赴任しました。総務省に入省して地方に赴任すると、年齢に比して高い職責を担う機会に恵まれます。通常、市役所の管理職となると50歳前後の方が多く、その方々と肩を並べて職務に臨むことになります。これは決して容易なことではなく、自分の未熟さを痛感することもあるれば、周りの方の心強さや温かさに触れることもあります。そうやって悩みながらも前を向き、様々な局面を開いていく経験は、自分にとってかけがえのない財産となります。入省する前に、今の自分を想像できたかという、答えは「否」です。官庁訪問時、生き生きと働く職員の姿に触れ、私の心は総務省に惹かれました。「新しい街を描く」仕事に携わることができる今の環境は、充足感に満ち溢れており、あの時の「直感」は今でも間違っていなかったと確信しています。皆さんも総務省を訪れ、職員に触れてみて下さい。きっと答えが見つかるはずです。

Private Life

上尾市には家族で赴任しています。長女は今年度から幼稚園に通います。赴任中、2人目の子どもも生まれました。市内は児童館など子育て施設が多く、子育て環境は充実しています。都内へのアクセスもよく、とても住みやすい街です！市内で開催される夏祭り、ハイキングや花火大会に行ったことは、家族のいい思い出です。

